

## 庭園植栽ゾーン

### 国際フォーラム庭園の植栽計画（案）

#### 目 次

計画の検討フロー	省略
Ⅰ. 分析	1
Ⅰ-1 計画地の特性	2
Ⅰ-2 上位計画等の整理	省略
Ⅰ-3 計画課題の整理	3
Ⅱ. 計画	12
Ⅱ-1 計画方針と計画目標	13
Ⅱ-2 計画実現に向けた検討	16

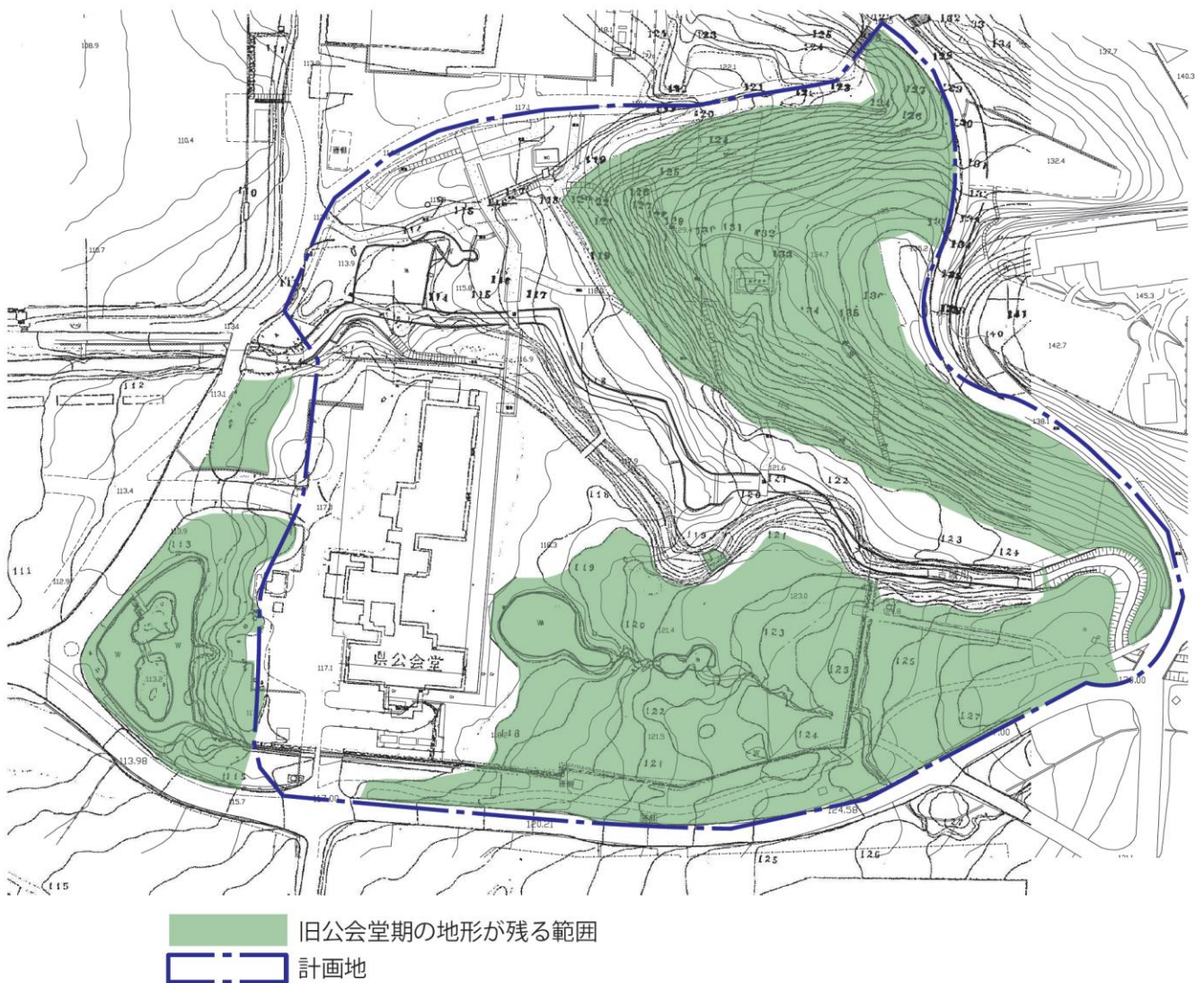
# I . 分 析

## I-1 計画地の特性

## (2) 歴史的な経緯

## 3) 麓建設時点での地形保全状況

麓（旧称：新公会堂）建設時の地形保全状況を確認するため、旧公会堂の地形図（実測）と現在の地形図（航測）を重ね合わせ、保全されていると考えられる範囲を下図に明示した。



上図と現在の植栽状況を照らし合わせてみると、造成され地形保全できなかった範囲にはウメやサルスベリなどの新たな花木や低木、地被類が植栽されている。地形保全されたところは、尾根の一部を除いて新たに植栽されているものはわずかである。

## I-3 計画課題の整理

「1. 計画地の特性」及び「2. 計画条件の整理」の結果を整理し、計画課題として以下の3つのレベルにとりまとめる。

- 保全・再生すべき要素
- 改善すべき要素
- 配植方針（見直し）に関わる要素
- 魅力資源の活用検討 **追加項目**

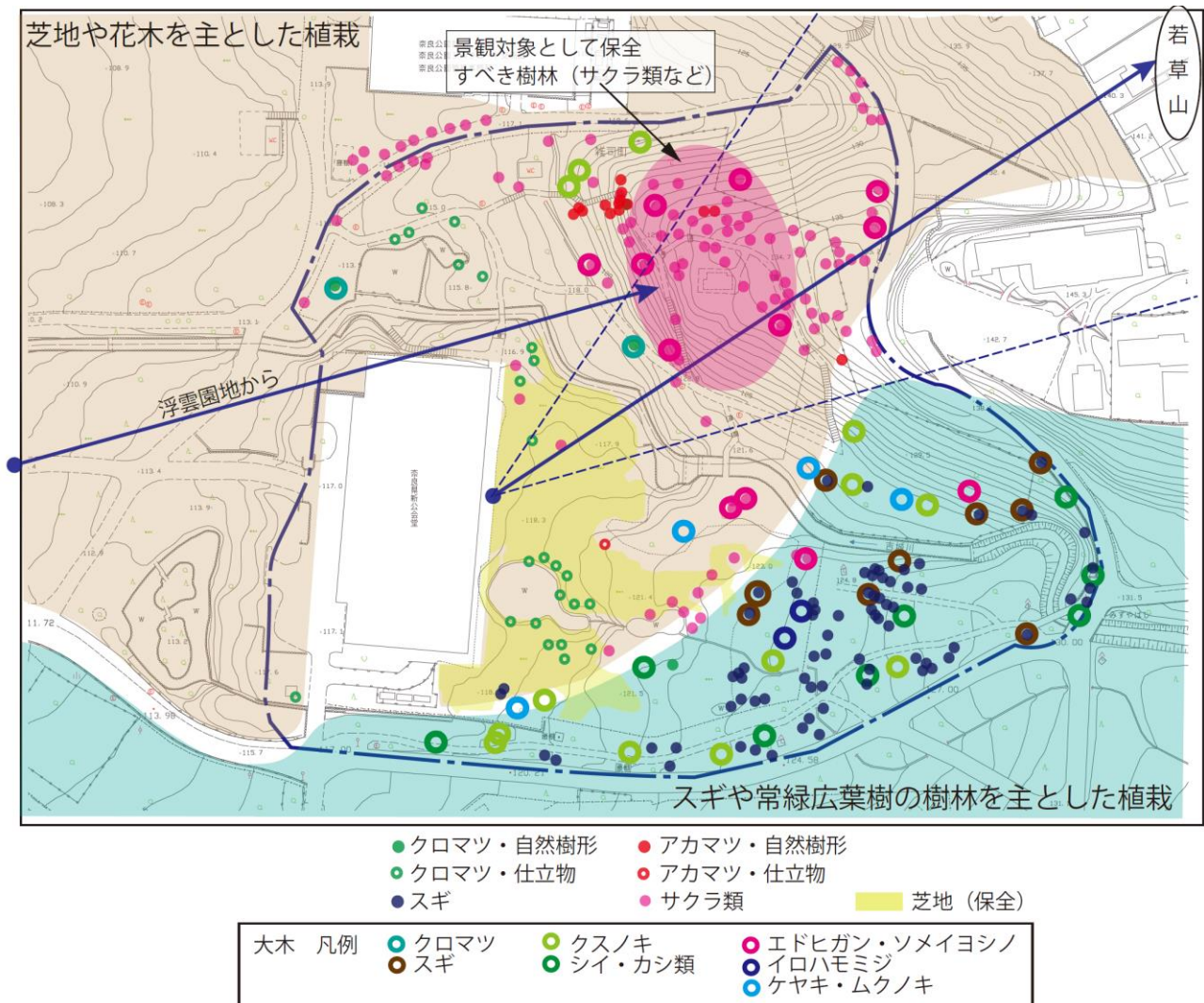
## 1) 保全・再生すべき要素

保全、再生すべき主要な要素は、以下のとおりである。

- ①マツ類、スギ、サクラ類、カエデ類の植栽群の保全
- ②重要樹木及び大径木の保全
- ③「薨」本館前に広がる芝地の保全
- ④「薨」本館から若草山への眺望景観の再生
- ⑤浮雲園地からの眺望の景観対象となる樹林（サクラ類など）の保全・再生

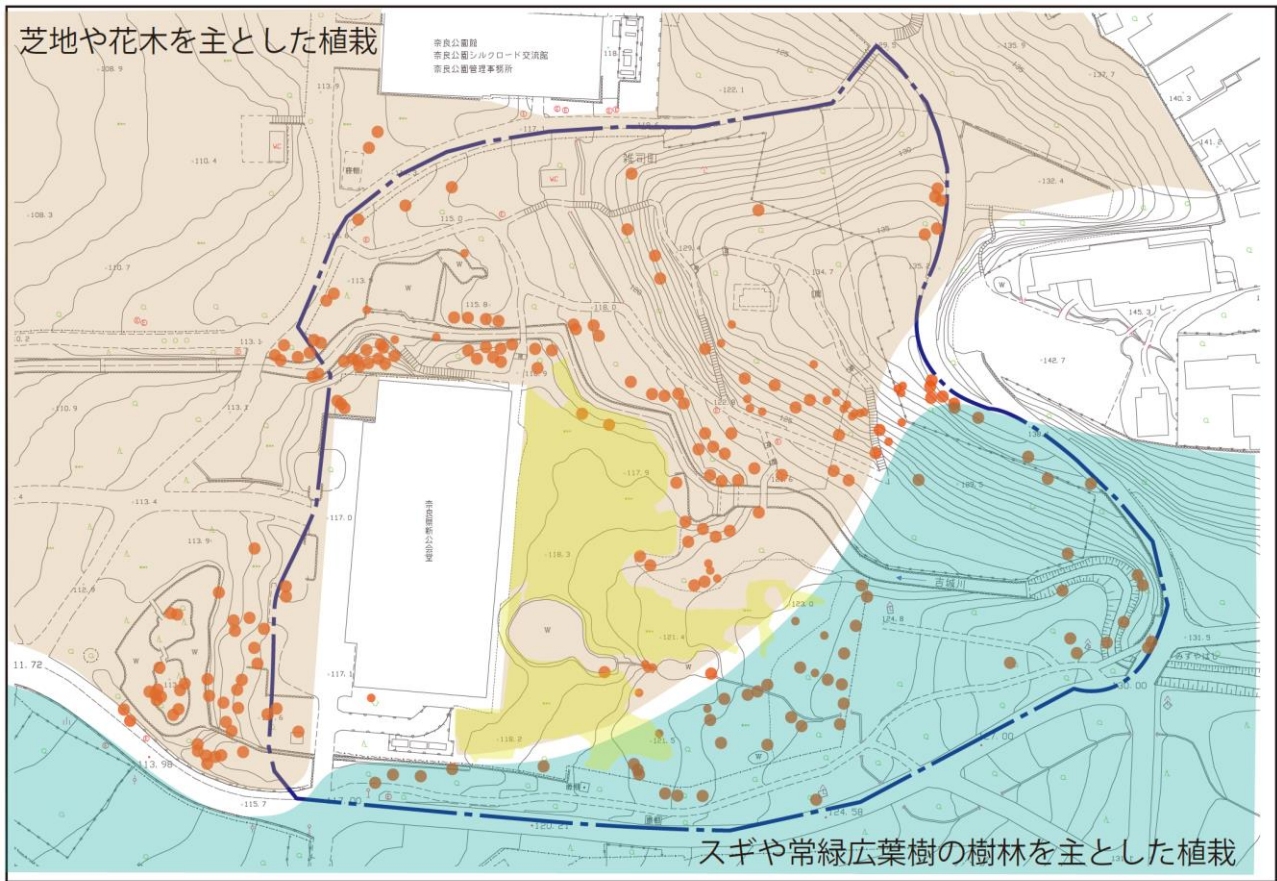
保全、再生を行うにあたっての留意点を以下に列記する。

- ・マツ類、スギ、サクラ類は分布傾向が明瞭なので、その傾向を活かした保全・再生が望ましい。モミジ類は芝地の拡がりを除き計画地全域に分布する。
- ・重要樹木及び大径木のうち眺望景観の支障となるもの（次頁図参照）は、総合的な検討が必要である。
- ・大径木のうちシイ・カシ類については、キクイムシ防除に十分な配慮が必要である。
- ・尾根上のサクラ類は生長が進み過密になりつつあることに配慮が必要である。



図：保全・再生すべき要素－1

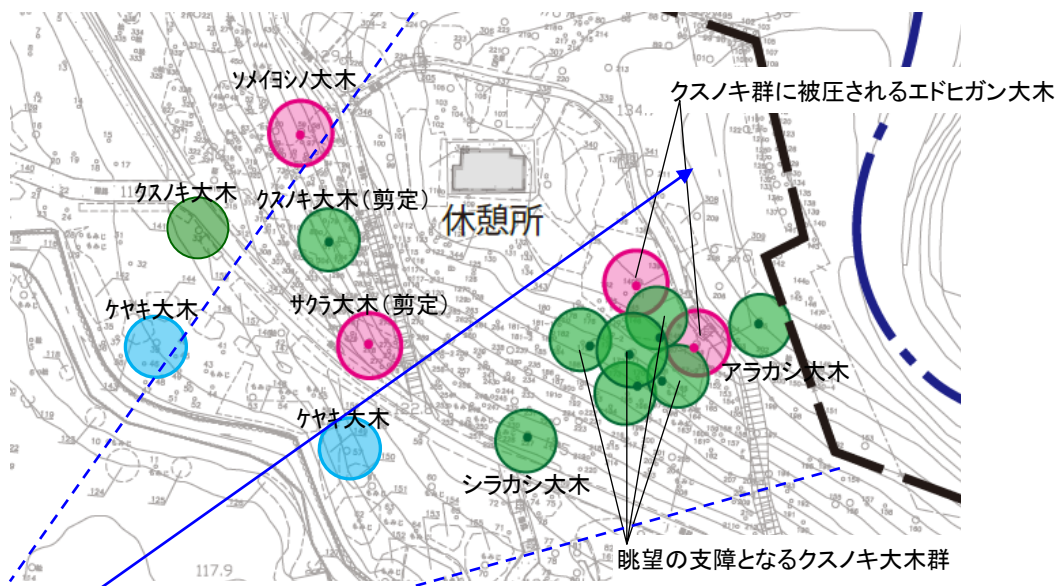




● イロハモミジ・ヤマモミジ

■ 芝地 (保全対象)

図：保全・再生すべき要素－２



- ・ 現在最も眺望を遮っているのはクスノキ大木群であるが、これらを伐採してもエドヒガンやアラカシ、シラカシ、ケヤキの大木が次いで支障となっている。
- ・ エドヒガンの生育・保全のためには、少なくとも被圧しているクスノキ2本を伐採する必要がある。

図：重要樹木及び大径木のうち眺望景観の支障となるもの

## 2) 改善すべき要素

改善すべき主要な要素は、以下のとおりである。

### ①過密樹木や生育不良樹木等の改善

- ・尾根上のヒラドツツジやトサミズキ等
- ・外周東端のカシ類等
- ・吉城川南のカシ類等
- ・ヤブツバキの群植地（2箇所）
- ・吉城川上流部のツツジ類
- ・太鼓橋周辺のスギ（2箇所）

### ②奈良公園に相応しくない外来樹木の改善

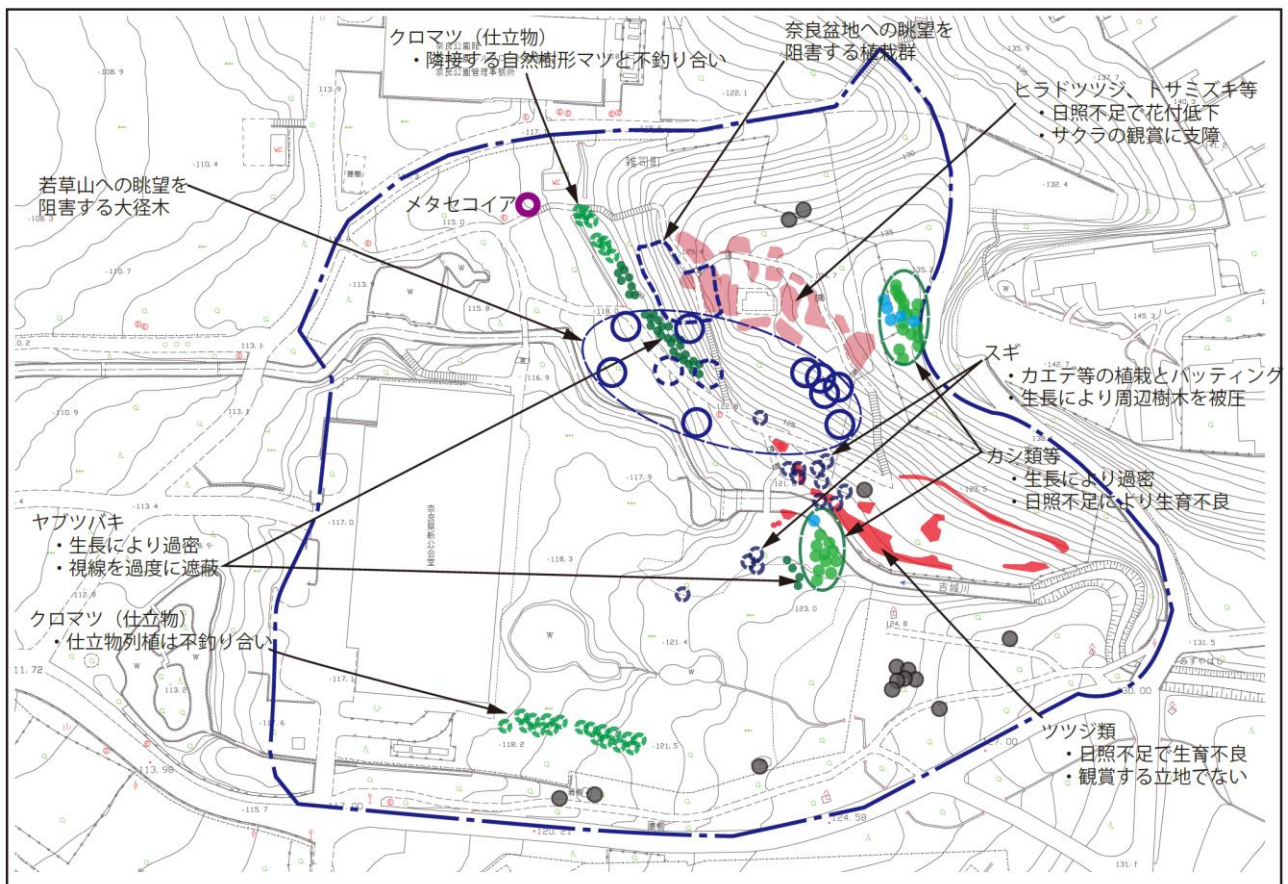
- ・メタセコイア
- ・ナンキンハゼ

### ③眺望を遮る植栽の改善

- ・若草山への眺望を阻害する大径木（クスノキ、ケヤキなど）
- ・奈良盆地への眺望を阻害する植栽群

### ④違和感のある植栽管理・配植

- ・尾根麓のクロマツ（仕立物）
- ・芝地南端のクロマツ（仕立物）の列植



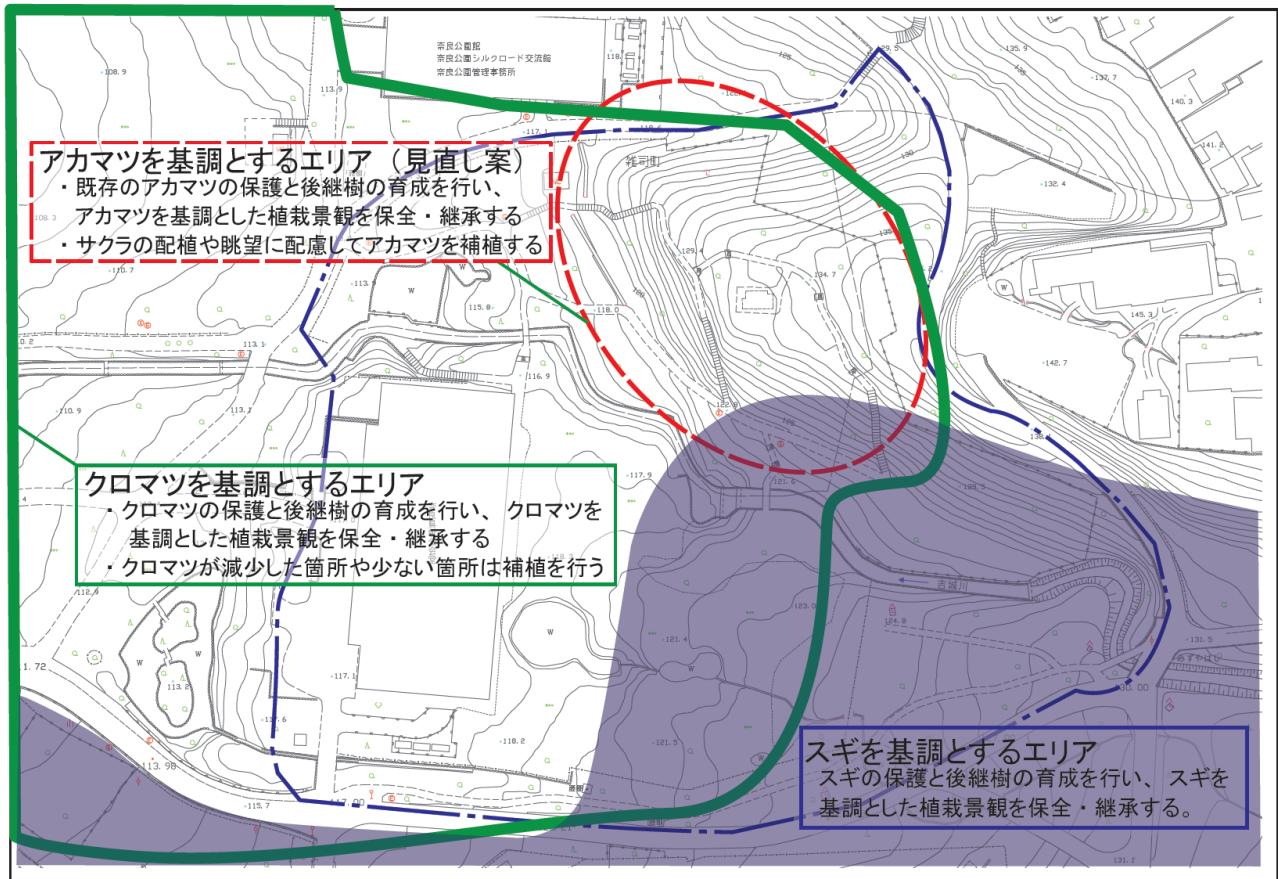
図：改善すべき要素



### 3) 配植方針（見直し）に関わる要素

現況植栽の分布は、「公園全体の植栽方針」（平成26年度）で設定した配植（案）にほぼ整合しており、本計画においては基本的にこの配植（案）に基づく配植が望ましい。しかし尾根部については、かつてはアカマツ林であったことや現況においてもアカマツが複数見られること、更には尾根部が自然的な植栽が特徴となっていることに配慮すると、基調とする針葉樹はアカマツが適切ではないかと考えられる。

よって、配植方針は下図のとおり見直しすることを検討する。



図：配植方針（見直し）に関わる要素

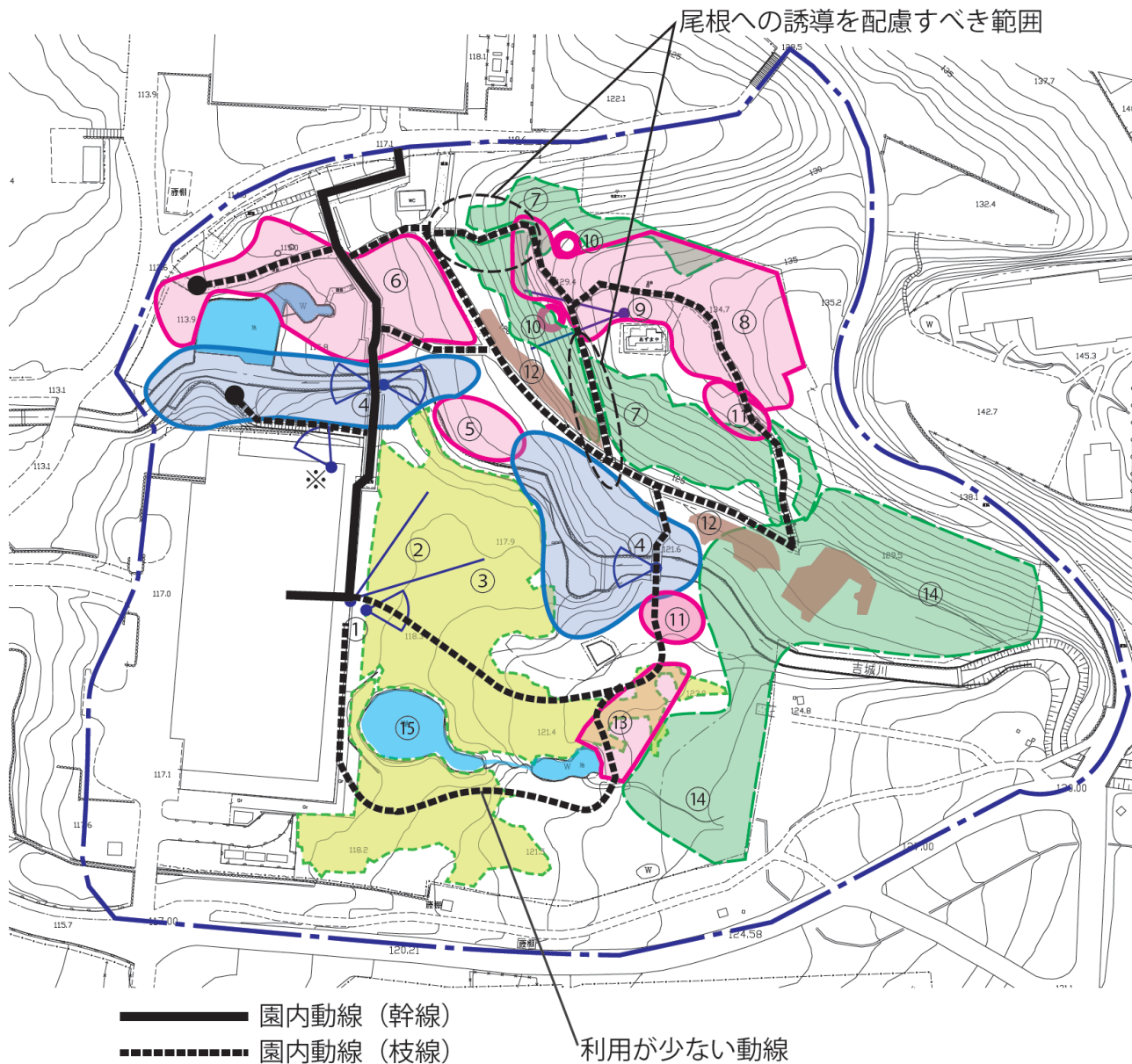


#### 4) 魅力資源の活用検討

計画地が庭園空間であることから、庭園内の多彩な植栽や眺望などの魅力資源を活用して庭園空間の質を高めることが望ましい。ここでは、主要な魅力資源を整理し、魅力的な庭園利用を促進するための検討材料とする。

# ①魅力資源の抽出

これまでの分析・評価結果から、庭園内の主要な魅力資源を抽出する。

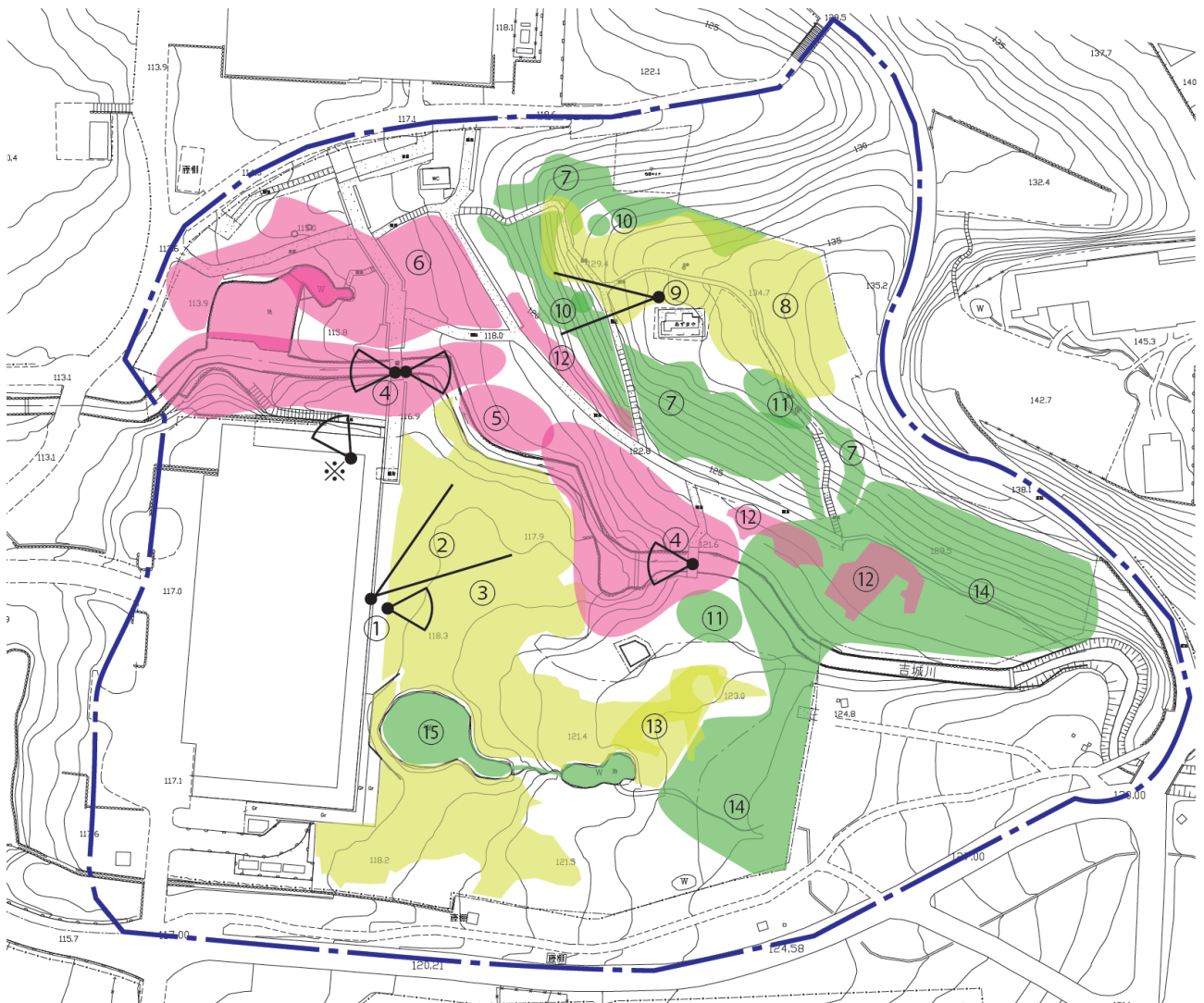


主要な魅力資源一覧	
①庭園中心部の景	⑨奈良盆地への眺望
②若草山への眺望	⑩ヤマザクラ・ソメイヨシノ大木
③芝地の広がり(イベント利用)	⑪エドヒガン大木
④吉城川とモミジ・ツツジの景	⑫シャガ群落の景
⑤サルスベリの景	⑬サクラの景(品種展示)
⑥梅林と修景池の景	⑭大木が立ち並ぶ樹林の景
⑦アセビ・ムラサキシキブ群落の景	⑮ひょうたん池と睡蓮の景
⑧サクラの景(ナラノエザクラ・ナラノコノエザクラ)	※特別応接室からの眺め

図：魅力資源の抽出

## ②魅力資源の分析

前項で抽出した主要な魅力資源を成立した時期別に整理する。



- 葦整備以前からある資源
- 葦整備時に改修された資源
- 葦整備時に新設された資源

図：魅力資源の分析

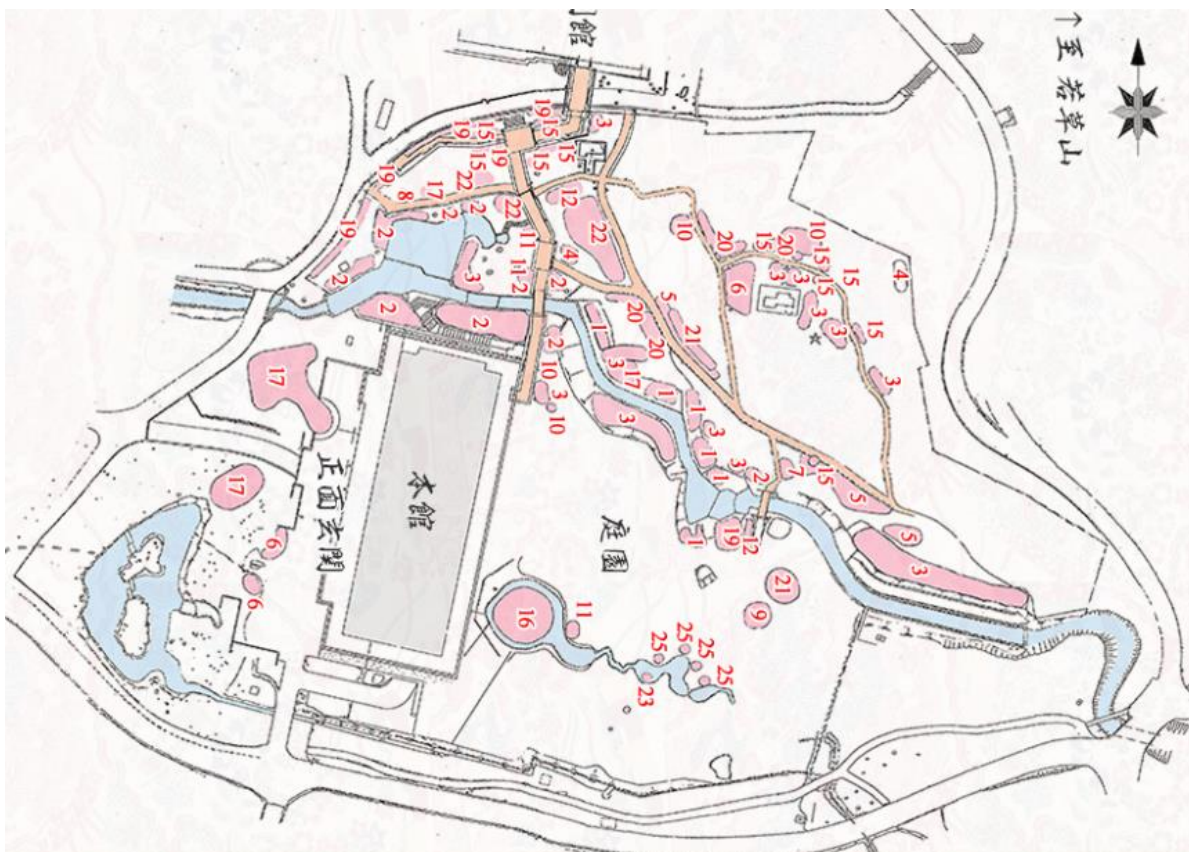
	葦整備以前からある資源	葦整備時に改修された資源	葦整備時に新設された資源
①庭園中心部の景		●	
②若草山への眺望		●	
③芝地の拡がり(イベント利用)		●	
④吉城川とモミジ・ツツジの景			●
⑤サルスベリの景			●
⑥梅林と修景池の景			●
⑦アセビ・ムラサキシキブ群落の景	●		
⑧サクラの景(ナラ/ヤエザクラ・ナラ/コノエザクラ)		●	
⑨奈良盆地への眺望		●	
⑩ヤマザクラ・ソメイヨシノ大木	●		
⑪エドヒガン大木	●		
⑫シャガ群落の景			●
⑬サクラの景(品種展示)		●	
⑭大木が立ち並ぶ樹林の景	●		
⑮ひょうたん池と睡蓮の景	●		
※特別応接室からの眺め			●



参考資料：花カレンダーと花マップ（国際フォーラム豊資料）

花 ■ 実 ■ 紅葉 ■

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1.キリシマツツジ				■	■							
2.サツキ					■	■						
3.ヒラドツツジ				■	■							
4.ドウダンツツジ				■	■						■	■
5.シャガ				■	■							
6.アセビ		■	■	■								
7.モクレン			■	■								
8.ナラココノエザクラ			■	■								
9.シダレザクラ			■	■								
10.ナラノヤエザクラ				■	■							
11.コムラサキ						■	■	■				
12.クチナシ						■	■					
13.コクチナシ						■						
14.ウメモドキ								■	■			
15.アジサイ						■	■					
16.スイレン						■	■	■				
17.サルスベリ							■	■	■			
18.カンツバキ	■	■									■	■
19.サザンカ	■	■	■								■	■
20.トサミズキ		■	■	■								
21.ヤブツバキ		■	■	■	■							
22.ウメ		■	■	■								
23.ハナショウブ					■	■						
24.ヤマブキ				■	■							
25.ギョイコウ				■	■							



## II . 計 画

## Ⅱ-1 計画方針と計画目標

### (1) 計画方針

#### 計画方針：庭園空間として多彩な植栽や眺望を活かした質の高い風景をつくる

##### 中央芝地：芝地の拡がりと多様な樹木との調和を高め、庭園の魅力を引き出す

- ・ 仕立物のマツは仕立て方や配植を見直す
- ・ 過密になった樹木は択伐や剪定を行う
- ・ 若草山への眺望を活かした景観づくりを行う

##### 平坦部北：花木類や草花類の美しさを高め、四季楽しめるものとする

- ・ 花木類や草花類を要所に再配植し、効果的な演出を行う
- ・ 花木類の活力度を高め、花や葉の美しさを引き出す
- ・ 一部のマツは、仕立て方や配植を見直す

##### 尾根部：アカマツとサクラの明るい野山を整備し、若草山や奈良盆地への眺望を再生する

- ・ アカマツとサクラの疎林を整備する
- ・ 樹高の高い広葉樹を適宜伐採し、眺望の再生を図る
- ・ 低木の配植を見直し、芝地を広げる
- ・ 外周部の樹木は背景植栽として保全する

##### 計画地南：春日大社境内樹林の一部として保全継承する

- ・ 常緑広葉樹とスギの樹林を保全・継承する
- ・ ナンキンハゼを伐採する
- ・ 庭園外周部は適宜スギやカシ類の補植を行う



#### 回遊動線：回遊動線を活用して魅力体験を促進する

- ・ 誘導効果のある景観づくりにより回遊を促進する
- ・ 景色変化を演出し、絵になる景色をつくる

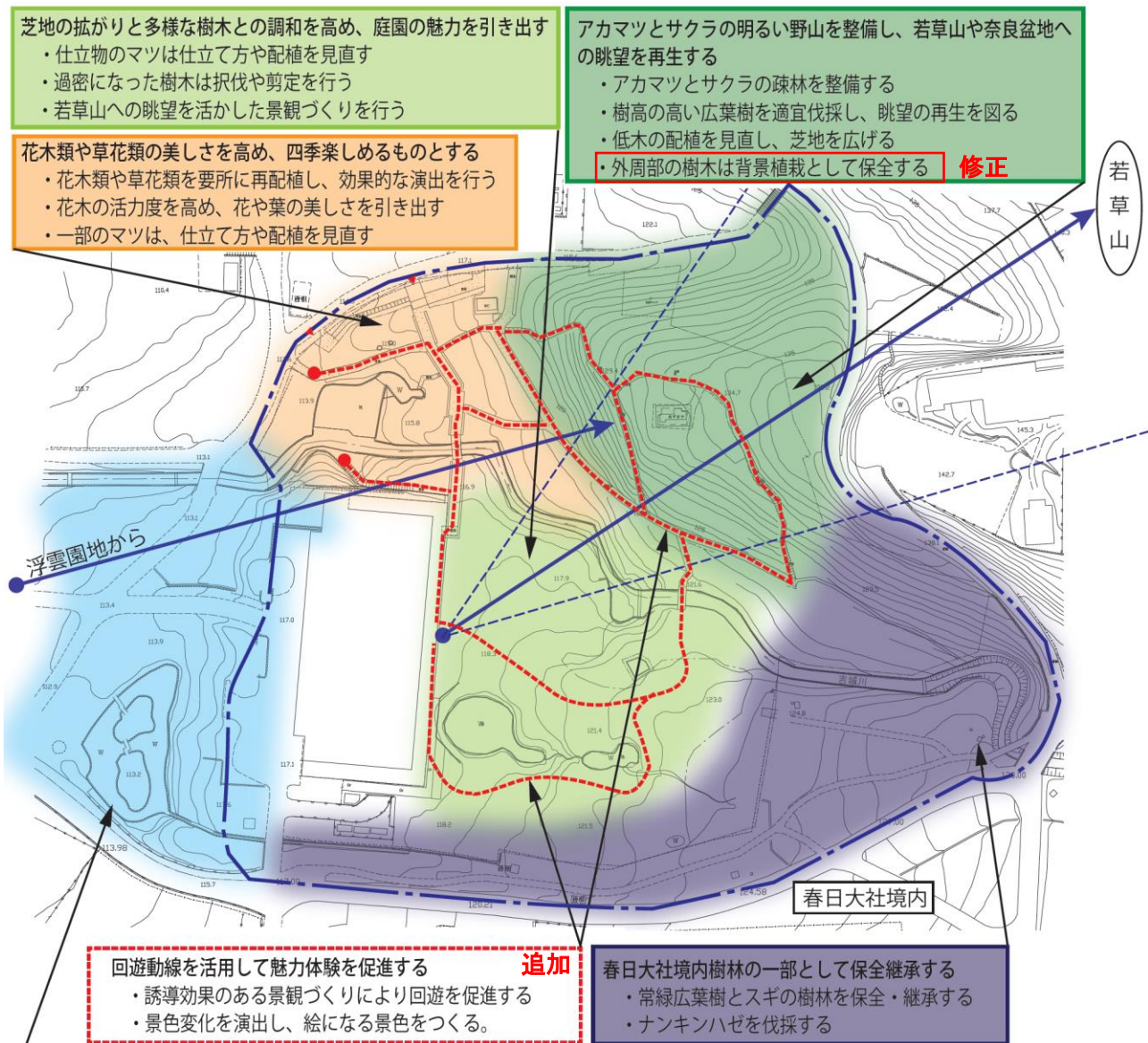
※参考 春日野園地他植栽計画（H26年）の計画方針より

#### 国際フォーラム薨へのアプローチに配慮し、建物や庭園との調和を図る

- ・ 国際フォーラム薨へのアプローチの演出に配慮する
- ・ サルスベリの植替や再配置を行い、調和のとれた植栽景観とする
- ・ 仕立物のマツは周辺植栽との調和に配慮し、仕立て方や配植を見直す
- ・ 隣接する国際フォーラム薨庭園との一体性・連続性に配慮する

※国際フォーラム薨のアプローチの方針は、本計画との関わりが大きいので参考として記載している。





**計画方針：**  
庭園空間として多彩な植栽や眺望を活かした質の高い風景をつくる

図：計画方針（案）

## (2) 計画目標

計画地の計画目標は、前述の計画方針（案）と立地特性等を勘案し、以下の図のとおりとする。



図：計画目標（案）



## II-2 計画実現に向けた検討

### (1) 事業上の課題と対応する検討方向

計画実現に向けた対策を検討するにあたり、現時点で想定される事業上の課題を整理する。

#### ●事業目標に関わる課題

- ・事業実施にあたって、目標像や目標水準の検討を行う必要がある。
- ・事業にかかる費用と得られる効果に対する考え方を整理しておく必要がある。

#### ●事業計画や整備工程に関わる課題

- ・全体の整備量や整備難易度の想定が難しく、事業計画や整備工程の立案が難しい。
- ・施設運営のため施工条件や工事時期の制限が大きいため、単年度整備量が限定される。
- ・仕立マツの樹木移植などは、複数年に渡って計画的に整備を行う必要がある。

#### ●庭園的な風景づくりに関わる課題

- ・整備対象となる樹木の多くは景観への影響が大きいため、慎重に整備を進める必要がある。また、整備過程の各段階で一定水準以上の風景となるように配慮する必要がある。
- ・眺望に関わる伐採や剪定などは、現場において指導者の下で眺望の変化を確認しながら行う必要がある。

#### ●整備に関わる課題

- ・樹木が多様かつ高密度であるため、整備工程や工法、重機選定などを慎重に行う必要がある。
- ・剪定や植栽などの専門的作業は、技術力のある工事業者を選任する必要がある。

#### ●管理に関わる課題

- ・品質向上のためには、植栽整備と植栽管理の連携・協調が必要となる。
- ・樹木の花付きや樹形などの魅力向上のためには、管理方法の見直しやスタッフの技術向上が必要である。
- ・現体制を前提にして品質向上を図るためには、作業の効率化を検討する必要がある。

次に、上記の課題に対応するための検討項目を下表に整理した。

課題に対応するための主な検討項目
①事業目標や事業の進め方の検討
②庭園的な風景づくりができる事業手法の検討
③発注方式や業者選定方法の検討
④管理の品質向上の方策検討

上表の検討項目のうち、先行して検討すべき項目は①②である。



## (2) 事業の進め方及び対応策の検討

### 1) 事業目標

植栽の長期的な目標は、前章の計画方針及び計画目標で設定されたとおりである。事業目標は、この計画方針及び計画目標の実現に向けて行う事業の到達点や目標となる水準を示すものとする。これについては、検討の結果以下のとおりとした。

#### ●事業目標（案）

- ・奈良公園の代表的景観の一つとして、広く知られる魅力的な風景をつくる。
- ・風景や植栽の魅力を発揮させ、集客効果を高める。

### 2) 事業の進め方（案）

事業は原則として次の3つの段階に区分して実施する。現時点における事業範囲は、現在の管理体制（奈良公園事務所による植栽管理）で取り組み可能な第2段階までを対象とする。

#### 現管理体制で取り組み可能な事業

##### 第1段階：現況植栽の改善と事業推進体制の確立

- ・主に現況植栽の緊急課題の改善に取り組む。
- ・管理技術向上のための研修や指導に取り組む。
- ・管理作業の効率化や、運営部局（国際フォーラム薔）との連携を高める。
- ・工事発注方式や風景づくりができる事業手法の検討に取り組む。

##### 第2段階：魅力のクローズアップと利便性・快適性の向上

- ・庭園の魅力要素の中から幾つか効果の大きいものを選択して魅力向上を図る。
- ・園路や案内サイン、ベンチ等の整備など利用者の利便性・快適性の向上を図る。

※事業は第2段階を当面の目標として第1段階から着手し、事業進捗を見計らい適期第2段階に着手する。

#### 管理体制等の増強が必要な事業

##### 第3段階：庭園全体の魅力と品位の向上

- ・庭園の風景や花などをテーマとしたイベントなどにより集客を高める。
- ・長期的な視点にたち、魅力の向上・継続を図る取り組みを行う。

#### 事業の進め方（案）について

本計画は事業実施に必要な費用や期間の算定が難しく、また得られる効果の大きさを推し量ることも難しい。このため事業着手前に最終的な事業目標を設定することは容易ではない。そこで事業を徐々に推し進め、その過程で誘致効果や利用者評価などにより事業効果を確認して最終的な事業目標を見直しながら事業を進める。

### 3) 具体的な対応策の検討

先行着手する事業は、第1段階の事業である。よって、具体的な対応策の検討については、第1段階の事業内容に対応したものとする。

#### 第1段階：現況植栽の改善と事業推進体制の確立

- ・主に現況植栽の緊急課題の改善に取り組む。
- ・管理技術向上のための研修や指導に取り組む。
- ・管理作業の効率化や、運営部局（国際フォーラム豊）との連携を高める。
- ・工事発注方式や風景づくりができる事業手法の検討に取り組む。



#### 対応策の考え方

- 庭園全体を総合的に捉える視点をもって取り組める対策とする。
- 各種の対策は、庭園の改善や魅力向上に効果的に反映できるものとする。
- 全ての関係者が事業目標やプロセスなどを共有し、連携できる対策とする。

#### 具体的な対応策（案）

##### ①熟練作庭家による指導

主に風景づくりに関わる様々な課題について、熟練作庭家による指導を行うことにより総合的な解決を図る。指導の対象は設計～施工～管理とする。

##### ②現場技術研修

現況植栽の改善点のうち、特に管理技術の重要性が高いものを対象にして技術研修を行う。研修方法は、専門家の派遣や見学会の他、植栽整備工事の作業に実技研修を組み合わせるなど、多様な方法を検討し効果的な方法を選択する。

##### ③庭園担当の導入

現場スタッフの意欲的な取り組みを促進するため、現管理体制の中に庭園担当の導入を検討する。庭園担当は、庭園内の管理作業のリーダー役を担うもので、庭園の目標像を見据えた管理方法改善の牽引役となることを想定している。

##### ④関係部局調整会議

事業統括、計画・設計、施工、管理、運営の関係部局担当者による調整会議を開催し、相互理解、連携、調整を図る。この調整会議の結果は、計画・設計、施工、管理に反映させる。

事業統括 : 奈良公園室

計画設計 : 奈良公園室、委託コンサルタント

施工、管理 : 奈良公園事務所、現場スタッフ、請負業者

運営 : 国際フォーラム豊

上記の第1段階の事業内容については、来年度以降に予定されている実施計画の策定段階で検討を行い設定していくものとする。

4) 参考となる事業の例

本事業の参考となる日本庭園の概況をとりまとめる。

参考事例：昭和以降に作られた日本庭園の改善事業

万博記念公園・日本庭園		徳川園		大仙公園・日本庭園	
所在地	大阪府吹田市	愛知県名古屋市東区	徳川園	大阪府堺市	大仙公園・日本庭園
施設の種類	公の施設	都市公園	都市公園	都市公園	都市公園
事業主	大阪府	名古屋市	名古屋市	堺市	堺市
規模・面積	庭園面積26ha	庭園面積2.3ha/総面積4.5ha	庭園面積2.3ha/総面積4.5ha	庭園面積2.6ha	庭園面積2.6ha
整備時期	1970年当初整備	2004年再整備	2004年再整備	1989年当初整備	1989年当初整備
併設主要施設	迎賓館、茶室、展示場	レストラン、(美術館)	レストラン、(美術館)	和室	和室
入園料(大人)	250円	300円	300円	200円	200円
担当部局	万博記念公園事務所	徳川園管理事務所	徳川園管理事務所	大仙公園事務所	大仙公園事務所
管理者	指定管理者：阪神造園業協同組合	指定管理者：名古屋市みどりの協会・岩間造園グループ	指定管理者：名古屋市みどりの協会・岩間造園グループ	指定管理者：南海・田中・大阪造園共同企業体	指定管理者：南海・田中・大阪造園共同企業体
植栽管理スタッフ		常駐スタッフ 7名、マツ・高所剪定は外注	常駐スタッフ 7名、マツ・高所剪定は外注		
改善事業の概要	指定管理者が、庭園の将来ビジョン及び作庭意図を踏まえた景観創出を実施するため、関係分野の専門家によって構成される委員会を設立し、空間づくりに関わる提言を求めるもの。	指定管理者が、歴史性のある庭園の景観形成を図るため、熟練の作庭家に庭園管理の現地指導を委任したものの。	指定管理者が、歴史性のある庭園の景観形成を図るため、熟練の作庭家に庭園管理の現地指導を委任したものの。		
事業期間(予定)	平成27年～未定	平成22年～継続中	平成22年～継続中		
事業内容の検討体制	「景観創出検討委員会」 尼崎博正 京都造形芸術大学 井原縁 奈良県立大学 坂上信明 中田政廣 吉田昌弘 (株)空間創研	「徳川園の植栽管理水準のための提言委託」 ・選任した作庭家に一任し現場で指導を行っている。 担当者 吉田昌弘 (株)空間創研 「近世武家庭園を意識して指導している」	「徳川園の植栽管理水準のための提言委託」 ・選任した作庭家に一任し現場で指導を行っている。 担当者 吉田昌弘 (株)空間創研 「近世武家庭園を意識して指導している」		調査中
具体的な改善方策	今後の検討結果による	・現場スタッフに現場にて直接指導 ・指導頻度5～6回/年(回数徐々に低減)	・現場スタッフに現場にて直接指導 ・指導頻度5～6回/年(回数は徐々に低減)		





図：万博公園 日本庭園



図：徳川園 日本庭園



図：大仙公園 日本庭園